

平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	子ども専用いじめホットライン相談事業			会計	款	項目	大	小		
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	指導課					
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	濱崎 祐子					
					01	10	01	04	03	58

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	流山市内の児童・生徒	意図	いじめや、辛いこと困ったことがあったら、児童・生徒自身がいつでも安心して電話相談ができ、問題の克服に向かえるようにする。
事業内容	生涯学習センター内の教育研究企画室の専用電話で、「流山子ども専用いじめホットライン相談員」がいじめ問題等に悩む児童・生徒からの相談に応じ、支援やアドバイスを行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成19年1月から事業を開設した。市内の小・中学校には、いじめアンケートの時期に合わせて、「流山子ども専用いじめホットライン」カードを全児童・生徒に配布している。また、市内の小・中学校や公民館、児童館等にポスターを配布し、子ども専用電話相談があることを周知している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	「子ども専用いじめホットライン」の相談件数	39	26	23	件
②	「いじめアンケート」調査の結果 小学校	71.60	96.10	94.50	%	↑↑↑	解消件数÷認知件数
③	「いじめアンケート」調査の結果 中学校	76.60	77.50	74.50	%	↑↑↑	解消件数÷認知件数
④							
指標で表すことができない定性的な成果	流山市唯一の子ども専用相談窓口の本事業は、いつでも児童・生徒が安心して電話で相談できる機関として機能している。		目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）				
事務事業のコスト	平成24年度	平成25年度	平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども電話相談の存在を知らせるため市内の全児童・生徒に「流山子ども専用いじめホットライン」カードを配布している。また、学校や公民館、児童館等にポスターを配布し、子ども専用電話相談があることを周知している。 ・相談の受付は、曜日に関係なく365日行っている。相談の内容については、毎月のホットライン会議で、情報交換を行っている。 ・電話を掛けてきた児童生徒は、話をする事で解決の糸口をつかみ、落ち着いたケースがほとんどである。 			
事務事業の総コスト(a=b+c)	3,758,446	2,913,057	3,918,935				
事業費(b)(円)	3,758,446	2,913,057	3,918,935				
うち一般財源	3,758,446	2,913,057	3,918,935				
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円) (建設又は取得年度のみ記入)							
想定耐用年数 (年) (建設又は取得年度のみ記入)							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続 (事業を現状どおり継続すべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	児童生徒が、いじめや悩みを話し、解決の糸口をつかめるよう、相談員が必要な知識や技術の修得に努める。	③取り組みの課題	いじめの認知件数に対して、相談件数が少ないことから、小中学生の認知度が低いと考えられる。
②今年度(H26)に実施した取り組み	小中学生からの相談にいていねいに対応することにより、支援することができた。	④今後の改善計画	件数は少ないが、子どもたちの命に関わる重要な事業なので、より周知を図りながら進めていきたい。